

介護支援専門員と相談支援専門員との 連携研修会 アンケート集計結果

(開催日時)

令和3年1月18日(月) 13:30~16:00

(プログラム)

1.講義「包括的支援体制構築事業・重層的支援体制整備事業」について

講師:厚生労働省障害保健福祉部障害福祉課 相談支援専門官 藤川雄一氏

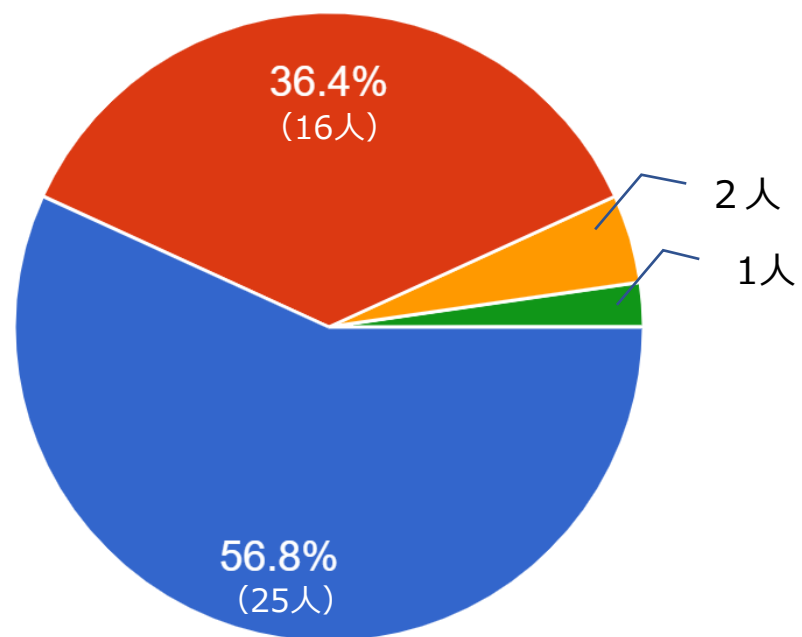
2.モデル事業報告 (彦根市社会福祉協議会 森氏 / ステップアップ21 吉川氏)

(研修参加者)

74名(介護支援専門員、相談支援専門員、行政職員)

あなたの職種をお答えください

44 件の回答

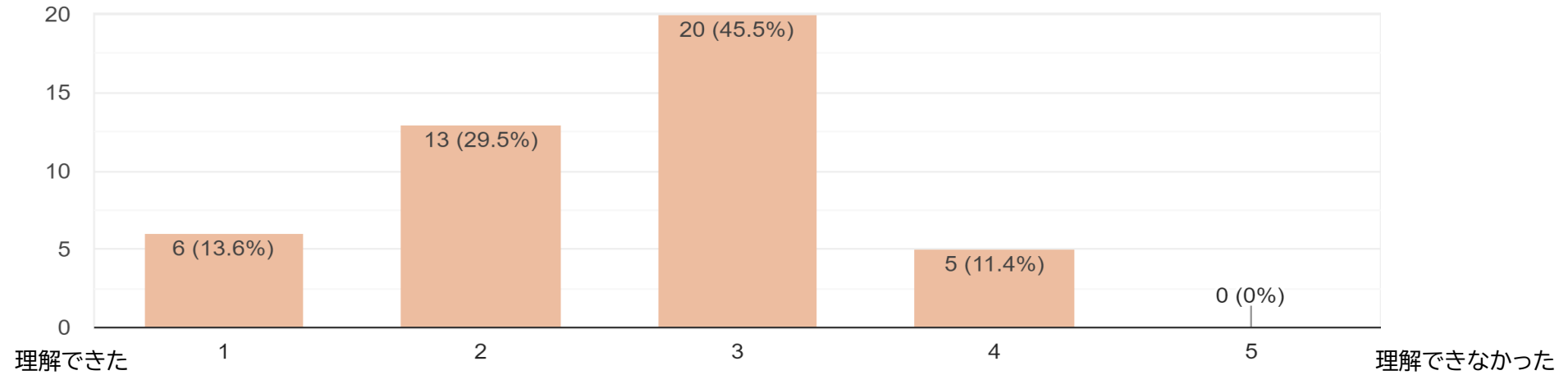


- 介護支援専門員
- 相談支援専門員
- 行政職員
- 相談員

1.講義「包括的支援体制構築事業・重層的支援体制整備事業」について

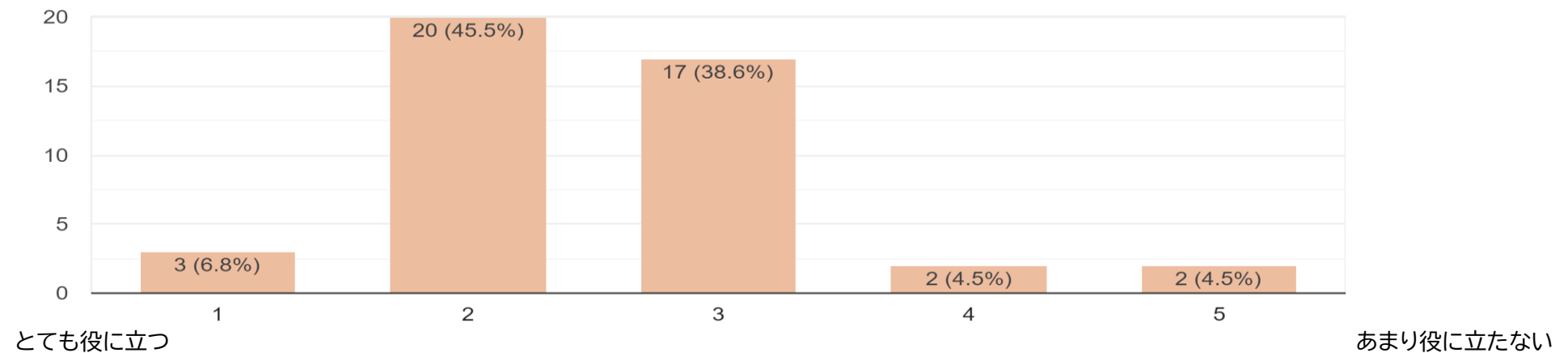
講義内容について理解できましたか？

44件の回答



今後の業務に役に立ちそうですか？

44件の回答



講義内容に関するご意見、ご感想をご記入ください①

国の方針、他市の取り組みを知ることが出来てよかった。時間があれば、ステップの取り組みも知りたかった。

どこがイニシアチブをとるのか、市町村がやる気になり、社協と行政が中心になってくれたら…。と考えてしまいます。障害分野が旗振りをするのは、少し難しそう。今も十分にできているところがあるので、そんなに急がないかな。今、とにかくみんなまったく1ミリも余裕がないです…。

通院の送迎や買い物の支援について、困っている利用が多いので、地域として取り組んで欲しい。

内容については事前に資料を頂いていましたので、ある程度理解することができたと感じています。ただリモートは集中が必要で疲れますね…経験済ですが…

重層的支援体制整備事業の全体イメージを見ていると、調整役とコーディネーター役が要になることがわかりました。ただ、地元市町での支援体制が構築されていく過程でどこが担うのか、具体的なイメージがわきにくいと感じました。

正直難しかったです。ただ、担当する利用者家族の中に障害のある方も多く、相談支援員との連携は重要と考えています。そこだけではないと思いますが、お互いに歩み寄る姿勢が大切かと思いました。研修ありがとうございました。

包括的支援体制構築事業・重層的支援体制整備事業について理解を深めることで、介護支援専門員と相談支援専門員の連携が重要であると考えることが出来ました。

新たな情報を知ることができて良かったです。

縦割りは国民にとって立ちどころの壁であり、横繋ぎで同じ財布から相談して上手に使おうという内容である事がわかりました。お金が無いと動かない事も事実だと感じます。先の見えない社会情勢のなかで、このミッションが稼働するとよいと思います。

64歳から65歳になって、障害から介護保険に切り替わったケースがないので、相談支援専門員と連携する機会がない。

全国のモデル事業の状況が聞きたかった。市町村がどう準備するのかにかかってくるので、まだ現実味が無い。

基本的な考え方をしっかり教えて良かったと思います。

研修内容を行政の人に届けたいと思う。講師の先生はこの事業は「気づいた機関」が中心になって進めるのでよい、と答えられたと思いますが、行政が理解し中心になってもらいたいと思う。

縦割り、分野の壁を超えて市町トータルで取り組める枠組みを用意してもらえたことは理解できた。ただ、主導的に動ける人がまず必要で、そういう人のいないところでは、なかなか次の動きは財政的なことも含めてしんどいと思った。特に人口規模がそこそこあるところは難しいのではないかな。重心関係で全国的に参考となる取り組み、ご紹介をよろしくお願いします。

講義内容に関するご意見、ご感想をご記入ください②

重層的支援体制整備事業について、講義を受けるまでは知らなかったもので、丁寧教えていただけて勉強になりました。今後このような取り組みで、地域で力をあわせてながら課題に取り組めたらと思った。

藤川様からのお話に合ったように、高齢者はリタイアした後に現在があるけれども、障害のある方の中には、生まれた時から社会とかけ離れた生活を送られている方も多数おられ、各々に浸かってきたものが違う中での支援には、お互いを知る必要と縦割りでは解決できない事象があることについての再認識をさせていただきました。地域により特性があり、「強み」を活かしながらの地域共生を行う為には、その地域をしっかりと理解することが重要で、まだまだ未知な部分がある私にとっては、まずそこを確実に知っていく必要があると思います。本日の講義有難うございました。

重層的支援体制についての講義だと分かっていたが勉強不足のため内容が難しく感じられた。

まるごと相談の必要性はよく分かります。ただ、すでに縦割りの制度が作られていて、それに対応する役所の体制が作られている以上、そこを変えられるのは役所でしかないように思いました。また、「地域づくり」が私の弱い部分かと思えます。そこは得意な人に巡り会えたら良いかな、と思いました。

新たな事業が始まるのはわかったが、方法が各市町、圏域でよい方法をとっているが、やる気のある、ないでかなり格差が出るのではと感じた。「せっかく制度するのにそんなばらつきがあつていいのか？」と感じた。

今、認知症の本人(夫)うつ妻、統合失調症の長男、引きこもりの次男のケースで、まさに包括、社協、障害とケア会議などを開き、家族をどう見ていくかを話し合っているところでしたので、事業所としては、家族全体は抱えきれないという気持ちが本心でしたが、包括的に家族を皆で支えていくシステムができればと思いました。ありがとうございました。

当市の場合での導入メリットがあまりピンと来なかった。障害相談の三層構造が変わるかも、私見ですが、とお話しされていた表について、ご説明いただければよかった。(私見の表が理解できなかった)

年齢到達で障害福祉から介護保険に移行になるご利用者様が増えてきたと実感しています。移行時には制度の切り替えにあたりご利用者様にご理解いただくのが難しいと感じることが多くあります。できるだけご利用者様へ負担のない形で制度を利用していければと常に思います。

重層的支援体制の実施に向けて、より支援者同士の意思疎通が諮れる機会、常日頃から話せる時間、関係性が重要だと感じた。

制度の概要でもあり、具体的な取り組み状況の理解し難さを感じました。費用面の話も自分が理解出来ていなかったように感じました。

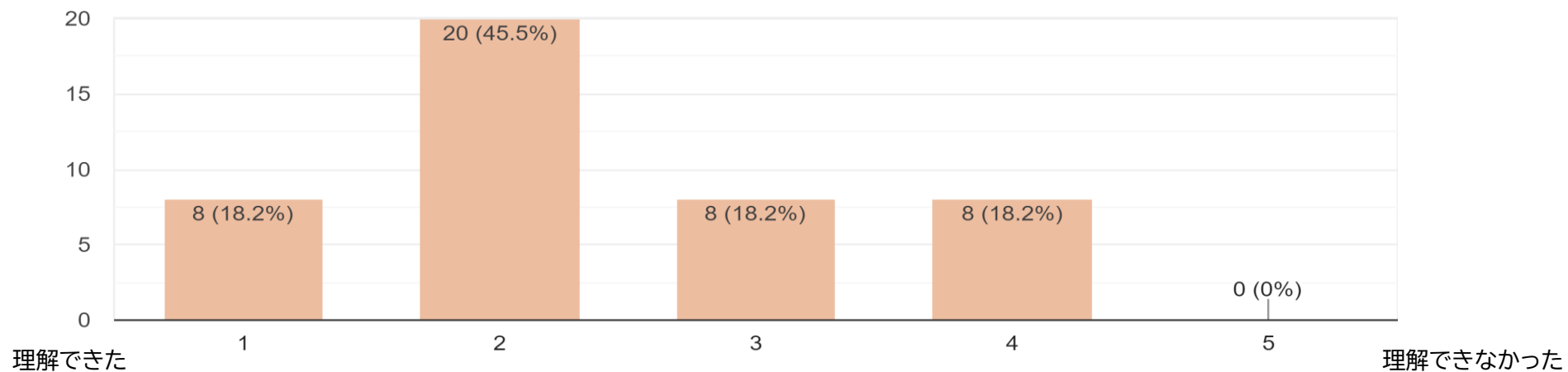
行政職員と一緒に学べる機会であったこと、大変有意義でした。

重層的相談体制に関しての概要は理解できた。障害分野はもともと児童期から高齢期まで横断して支援をするので、重層的相談との親和性は高いかと思う。藤川専門官が示した障害の相談支援の今後の体制図に関しては委託相談支援をどう位置づけるのか。各圏域の状況に応じた議論が必要となるのだろうが、計画相談で対応できない人を支援するとなったときに、対象の枠も広がり多様な障害の方のどこまでの支援をカバーできるのかと考えると、障害の委託相談だけで対応できるキャパも限られてくるので、他機関との連携は重要だと思った。委託相談支援はよりつなぐということが役割として求められるのかな。

2.モデル事業報告

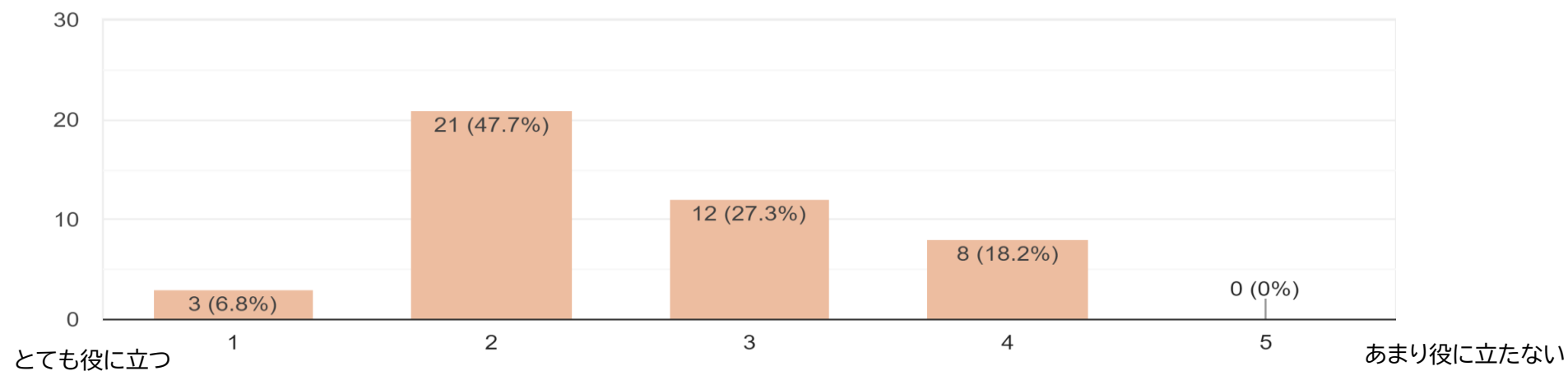
報告内容について理解できましたか？

44件の回答



今後の業務に役に立ちそうですか？

44件の回答



報告内容に関するご意見、ご感想をご記入ください①

国の方針、他市の取り組みを知れて良かった。時間があれば、ステップアップ21の取り組みの詳細について、もう少し知りたかった。

やっぱり社協がイニシアチブをとってくれるといい。

ボランティアの育成、事業への取り組みがうまく繋がっている課題と、繋がらない課題があることが分かった。

報告ありがとうございました。

複合的な問題を抱える障害家族への従来おこなってきた支援やアプローチ、支援体制づくりとの違いや、事業実施することによるメリット等についてもお聞きしたかったです。

誰が・・・ということはないということは理解できましたが、私の市町では、なかなかそこまで出来ていないのが現状と思います。声をあげていかなければ、何も進まない現状もありますので少しでも前に進めるようにしていきたいと思います。

実際には地域連携の形はさまざまで、中々良い連携モデルになるかどうかは今後地域でのさまざま立場や役割の方々との会議が必要だなあと感じました。

他職種の強みを知ることで、チーム構築に繋がると理解しております。又、支援者も援助していくことが大切だと感じました。

他の圏域の取り組み状況を知ることは自分たちの取り組みを検討するうえで大変参考になりました。

時間をかけて取り組まれている様子がよくわかりました。

たすけあい鳥居本の報告で、社協と包括が、支援チーム と名づけられているのに驚きました。報告にある活動は実際にはしておりますが、いつ名づけられたのでしょうか。

包括は、地域ケア会議を開催するので、参加する機会が多いかもしれませんが、居宅介護支援事業所は、64歳から65歳になって、介護保険に切り替わるタイミングにならないと、連携する機会は、ほとんどないように思いますが。

もう少し具体的な会議の内容など事例など上げて話してもらえれば参考になったかもしれない。

「地域共生社会」を難しく考えなくて良いのだと考えるようになりました。

とても参考になりました。どこの地域でも課題だと思いますが「人事異動」で温度差が出ることはなるべく避けたいですね。共感がポイントという言葉に激しく同意します。ありがとうございました。大きな彦根市なのに、これだけ集まって研修や会議をされていることに感心しました。

この取り組みに触発されて、当圏域でもこのような動きが見られた時には、惜しみなく協力できるようにしたい。

社協での活動がわかりやすかった。

彦根市内での取り組みや実情を改めて知り、今後支援者としても関わることになるため、新しい情報や動きにもアンテナを張りながら支援を行えたらと思う。

報告内容に関するご意見、ご感想をご記入ください②

多種多様な専門職や機関と共に、実践され歩まれてきた行程にご苦労と皆様の熱い思いを感じる事が出来ました。又、彦根市と私共の居住地である大津市では人口規模などの違いがあります。大津市の中で圏域ごとに区分けしての事業促進が出来る事がベストと考えます。夢見事ではなく、実践していけるシステム作りの一員に加われるよう、今何をしなければならないのかを見極めていきたいと考えます。今後のご発展に期待しています。ご報告有難うございました。

こんな経験あるわと実際に思うことが多々あったため話の内容は理解できた。

社協の取り組みや姿勢が浸透しつつあり素晴らしいと思います。地域の課題を地域の方々と取り組めるのはたくさんの機関の協働が不可欠と思いました。

社協さんならではの取り組みをなさっていて、すごいなと思いました。障害福祉サービスから介護サービスへの移行について、システムとしては図に描かれた流れに間違いのないと思います。あとは、当事者の納得なり安心なりが得られるような関わり方が、大事かも知れないと思いました。

今当市でやっている、生活困窮事業の事例検討等と同じ取り組みのように思われて、やはりこの事業導入のメリットがあまりわからなかった。現時点ですでに、制度のハザマの困りごとについて、各分野の担当が一步踏み出すことも可能であり、問題が起こったあとの対症療法的な対応のあとも細く長くつながっておくようなかわりも、一部ではできているとも思う。

彦根市の実践は長い時間をかけてよく話し合いをされたと思いました。でも、縦割りではなく横の関係で他職種で話し合いをすることはお互いの職種の理解にもつながるので良いことだと思いました。

複雑化する支援ニーズのあるケースの相談を重層的会議で検討することの繰り返しで、良い方向性を見つけるとの理解で良かったのでしょうか。また、会議にかかる時間や費用はどのようになるのか知りたいことが後で感じました。

【高齢分野に携わる方にお尋ねします】障害分野との連携を深めるために、障害分野に求めたいことはありますか？

介護サービスへ移行する際、障害の担当の方が説明できず移行している場合があります。家族に障害があり、連携したいと連絡することがあるが、意識にズレを感じる時もある。

障害と介護の併用利用について詳しく教えて欲しい

同一家族を高齢・障害で担当している場合があります。お互いのプランを知らずして支援していることが多くあります。こちらから連絡しても、そうですか・・・程度。出来れば、カンファレンスの機会を持つ、またお互い担当していることを名乗ることはしてほしいと思います。正直、全体として捉えず障害の人のみを見ている方が多く、連携をしようとされない方もおられます。全体を捉えるアセスメントの力量を上げて頂きたいです。

こうした研修合同の研修での検討会と一緒に参加できると連携できるので良いと思う

連携を深めるために、互いの分野の知識や課題を共有できるような研修や会議の場を設けていきたいと思います。

お互いが話し合える場所

障害で出来ていることが介護保険ではできないことがあるので介護支援専門員が障害分野の知識を持ちたい。

健常者で就労を全うし、加齢によって出来ないことが増え介護サービスを利用されるという過程を知っておいてほしい。

障害分野に比べ、介護保険制度は制限が多いことを理解してほしい。

介護保険に、切り替わる際には、ヘルパーの訪問時間や利用料の1割負担など、トラブルにならない様、同行し、介護支援専門員の方から、サービスについての説明をさせて頂きたい。また、認定調査の項目も、介護と障害では違うので、認定結果も異なることなどの説明もCMから説明させていただきたい。

相談支援員さんのお仕事をもっと知りたいです。

求めることばかりではなく、自分たちがどれほど障害分野の事を知っているかと聞かれると恥ずかしい知識です・・・どの程度介護保険のことは知っていただいているのかはお聞きしたいです。

障害分野と高齢者分野の合同の研修は価値があると思いました。

以前に、障害分野で就労されていた方が転職されてきます。高齢者支援については未知であると話されていましたが、自身のご両親や身近な方の加齢により、何かしらの知識を得る機会は皆さまおありだとは思いますが、専門的な内容になるとやはり難しい部分も多いと思います。反対に、高齢者支援に携わっている者にとっては、障害分野の知識が薄い関係さやが大半であると思います。今後、相互に学べるような仕組みづくりを作っていければと思います。

机上ではお互いなかなか理解ができないと感じる。

障害分野の事がわからないので教えてほしい。

障害福祉からの移行時にはカンファレンスの場をしっかりと作ってほしいです。課題や継続可能な障害福祉の制度などを整理して申し送りをしてほしいです。

障害制度の時期と介護保険制度になってからの費用の差額をどのように利用者へ理解を求めればよいのか知りたいのはあります。まだまだ高齢分野に障害制度を使っていた65歳の方が移行するときの馴染み難さは感じます。

【障害分野に携わる方にお尋ねします】高齢分野との連携を深めるために、高齢分野に求めたいことはありますか？

ケアマネジャーさんの一般的な1ヶ月スケジュールや電話が繋がりがやすい時間帯や期間を教えてくださいとありがたいです。

連携する機会の枠組みがあると実行しやすいかと思いました。

今も、連携できているように思う。

65歳以上は介護保険サービス優先となり引き継ぎを行わせていただくこととなりますが、介護保険のニーズに沿わないものもあります。連絡を密にとり不安の少ない移行を目指していきたいです。どうぞなんでもご連絡を。

一家を問題の対象とする場合、高齢分野の方もケース会議にお誘いしますが、お声掛けで参画していただけてありがたく思っています。一方で、包括支援センターへの繋ぐタイミング等、一致しづらい実感がありますので、より連携が図られるよう色々勉強させてほしいです。

互いに制度運用の違いや当事者との関わり方法で学びあえる機会があればよいと思っております。

お互いの役割や基本的な理念、動き方を知る機会があるといいと思います。うちの常識は他の常識ではない、と理解することからだと思います。

障がい分野には介護保険制度の知識を持たないといけないと思うし、高齢分野には障がい福祉制度の知識を持ってほしい。どちらの分野も関わらないとわからないと思うが、ケアマネジャーの中には障がいのことはわからないのでケアプランに入れられないから相談員が障がい部分のプランを立てて、と言われることもときどきある。

障害と介護の分野では考え方や支援の方向性が違う為に、理解されないことも多く支援がうまくできないことがある。そのため障害・介護分野でのお互いの支援を理解していくことが必要ではないか。お互いの良い所を吸収し、支援の方向性を足並みをそろえて出来るような、研修などがあると良いのではないか。

制度的にはプランニングの大半を介護支援専門員が担うこととなります。そのため、介護支援専門員は障害福祉サービスやその地域でのサービス提供体制など、詳しい情報を持っておいてもらうことが必要だと思います。

制度としての「あそび」が介護保険制度には少なく、一歩踏み込んでの支援が組み立てづらいことを改善してほしい。これは、ケアマネジャーに対して求めたいことではなく、厚労省の制度設計について求めたいことです。必要とされるサービスに、一歩踏み出して支援するのは障害側、となってしまうケースが多いように感じるからです。ご高齢になられた障害者の方に必要な支援が介護保険外で、障害に相談があり、検討の結果「障害福祉制度対象外」と回答した際に、「なぜ！？」と反発されるのは、少し違うような気がしてしまいます。

介護の支援と生活に関する支援の違い、本人自身の保障されるべき権利をもとに支援を考えられるような相互理解ができるといいです。

一人の方の事例でその方の求める姿や希望について協議し、一緒にサービス計画を立てる研修の機会があるとよい。

連携する機会の枠組みがあると実行しやすいかと思いました。

障害分野の福祉サービスおよび相談システムの理解